

# 中央区の概要

## 1 地 勢

- 中央区は、本市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け中央に信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、更に海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。
- 区の面積は新潟市の全面積（726.10km<sup>2</sup>）の約5%を占めており、37.42km<sup>2</sup>で、8区の中で一番小さくなっています。
- 地勢は概ね平坦ですが、鳥屋野潟周辺をはじめ、海拔ゼロメートル以下の地域もあり、また、海岸部に連なる砂丘がわずかに高台をなしています。
- 区内は土地の高度利用が進み、様々な都市機能が集積する一方で、国の重要文化財に指定された萬代橋や、湊町の歴史的建造物など、伝統的文化を感じることのできるまちなみも存在しています。



上空より区内を望む



重要文化財 萬代橋

## 2 歴 史

- 1622～44（寛永年間）年  
海岸砂丘部及び亀田郷の内陸砂丘部と自然堤防に次々と村ができ、現在の村の原型が出そろいました。
- 1655（明暦元）年  
新潟町が白山・寄居島へ移転し、現在の町割りの原型となり、この時期に西回り航路が整備されました。
- 1684（貞享元）年  
沼垂町が阿賀野川・信濃川の川欠けにより、4度の移転を経て現在地に落ち着きました。

●1688～1704（元禄年間）年頃

日本海側最大の港町となりました。

●1746（延享3）年

信濃川右岸の大きな中洲・附寄島の開発が、安倍玄的ら5人により開始され、1750（寛延3）年に完了し、流作場新田と呼ばれました。

●1768（明和5）年

新潟町で長岡藩の御用金賦課をきっかけに町民が蜂起し、2ヵ月にわたり町民による自治が行われました。

●1843（天保14）年

新潟町は幕府領となり、初代新潟奉行として赴任した川村修就は、砂防林の造成、物価の安定、海岸防備、風俗の改善などさまざまな施策を行いました。

●1858（安政5）年

新潟町は修好通商条約で開港5港の一つとなり、1868（明治元）年に開港しました。

●1870（明治3）年

県庁所在地となり、開化政策が積極的に進められ、1877（明治10）年までに新潟郵便役所、国立銀行などが置かれました。

●1879（明治12）年

新潟町に寄居白山外新田が編入され区政が施行されました。

●1889（明治22）年

関屋村古新田と合併し、全国で最初に誕生した39市の一つとして市制が施行されました。

●1914（大正3）年

新潟市と沼垂町は近代埠頭の築造を期して合併しました。

●1929（昭和4）年

萬代橋は現在の3代目に架け替えられました。

●1943（昭和18）年

石山村・鳥屋野村と新潟市は合併しました。

●1955（昭和30）年

新潟大火では市役所をはじめ、中心市街地の多くの建物が焼失しました。

●1964（昭和39）年

新潟国体が開催されました。国体に向けた整備のため、市街地の堀がすべて埋め立てられました。また、同年マグニチュード7.5の新潟地震が発生し、被害は新潟市中心部に集中しました。

●1972（昭和47）年

関屋分水路が通水しました。

●1978（昭和53）年

北陸自動車道・新潟―長岡間が開通し、1997（平成9）年までに関越自動車道・北陸自動車道・磐越自動車道が全線開通しました。

●1982（昭和57）年

上越新幹線・新潟―大宮間が開通しました。

●1991（平成3）年

上越新幹線が東京駅に乗り入れ、新潟—東京間が日帰り圏内となり、新潟市は日本海側の高速交通拠点となりました。

●1996（平成8）年

拠点性を高めた新潟市は、中核市に指定されました。

●2001（平成13）年1月

平成の大合併で、黒埼町と合併しました。

●2002（平成14）年

日本・韓国で開催されたワールドカップサッカー大会では、新潟スタジアム（ビッグスワン）が試合会場となりました。

●2005（平成17）年3月

新津市、白根市、豊栄市、小須戸町、横越町、亀田町、岩室村、西川町、味方村、潟東村、月潟村及び中之口村の12市町村と合併しました。

●2005（平成17）年10月

巻町と合併しました。

●2007（平成19）年4月

新潟市は本州日本海側初の政令指定都市となり、「中央区」が誕生しました。

●2008（平成20）年5月

主要国首脳会議（G8サミット）の労働大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

●2009（平成21）年9月～10月

第64回国民体育大会（トキめき新潟国体）・第9回全国障害者スポーツ大会（トキめき新潟大会）が開催されました。

●2010（平成22）年10月

APEC（アジア太平洋経済協力）食料安全保障担当大臣会合が朱鷺メッセで開催されました。

●2014（平成26）年8月

新潟市・沼垂町合併100周年記念事業を開催しました。



新潟市・沼垂町合併100周年記念事業「萬代橋de 100年婚」

### 3 自然

- 本市の中心部に位置する新潟西海岸は、日本海に面し、飛砂と強風からまちを守るための防風林として江戸時代末期よりクロマツが植林され、現在では多様な動植物を有する市民の貴重な自然資源となっています。
- 中央区を流れる信濃川の両岸には、全国初の緩やかな堤防（やすらぎ堤）が整備され、緑地や遊歩道、サイクリングコースなど、河川と一体となった親水空間として、人々が集い、憩えるやすらぎの場となっています。
- 鳥屋野潟は、都市に隣接し、貴重な自然環境を生かした市民の憩いの場として、また、市民の生活を守る遊水地として、治水上も大きな役割を果たしているほか、ガンカモ類の集団飛来地であるとともに、湖岸にはヨシが優占する広大な湿性草地が形成され、多様な動植物の生育・生息環境となっています。



鳥屋野潟

### 4 人口

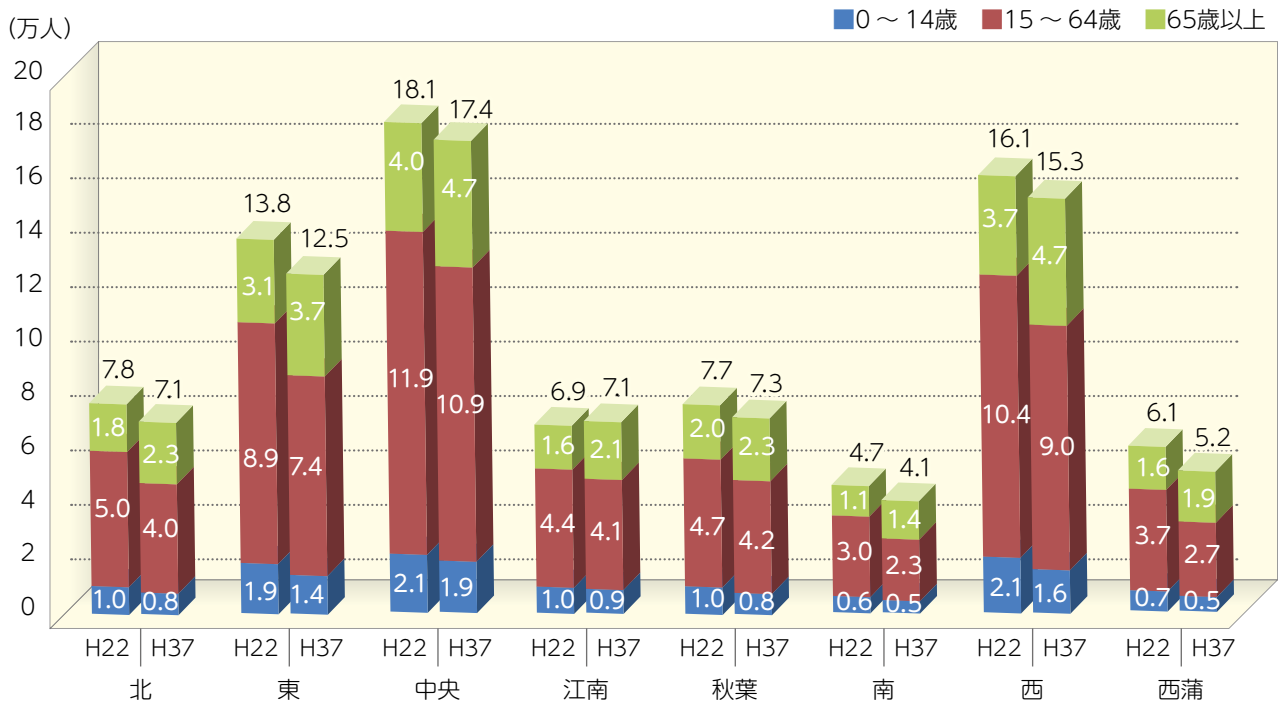
- 人口 180,537人（8区の中で最大）
- 世帯数 85,405世帯（8区の中で最大）
- 1世帯当たりの人口 2.11人（8区の中で最少）
- 中央区年齢階層別人口、将来推計人口（階層別）  
老年人口（65歳以上）の割合 22.2%（市全体の割合 23.2%）

（出典）H22年国勢調査

ただし、区内の一部には、市全体の中で非常に高い割合を示している地域があります。

将来推計人口によると、今後はさらに人口が減少し、より一層高齢化が進むことが推測されます。

## 区別将来推計人口

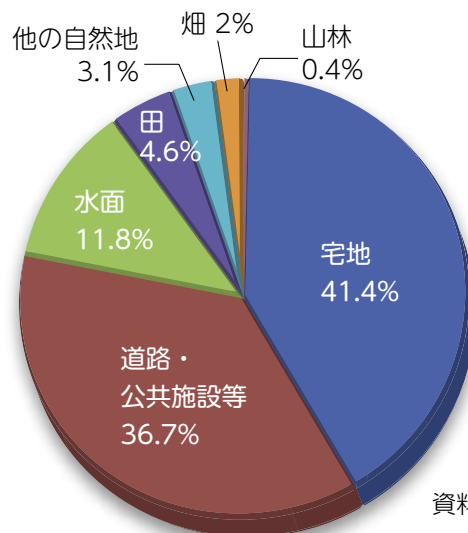


資料：国勢調査 (H22) 結果を基準として推計

## 5 土地利用

- 特徴 都心をもつ区として、さまざまな都市機能が集積し、土地の高度利用が図られています。
- 面積 37.75 k㎡ (8区の中で最小)
- 用途別土地利用面積の割合 宅地が占める割合が最も高い
- 人口密度 職住近接の利便性の高い居住地として、人口が集中している。(8区の中で最も高い)

### 土地利用割合



資料：新潟市都市計画基礎調査 (H21)

## 区別人口密度

(人/㎢)

新潟市	北 区	東 区	中央区	江南区	秋葉区	南 区	西 区	西蒲区
1,115	709	3,555	<b>4,876</b>	917	806	457	1,725	335

資料：新潟市資料（H25.10.1現在）

## 6 産 業

- 中央区は、本市の経済をけん引する中枢の役割を担っており、商業の事業所数や年間商品販売額は8区の中で最も多く、特に飲食料品、建築材料などの卸売業や衣料品、飲食料品などの小売業の割合が高くなっています。
- 工業の事業所数は、東区、北区に次いで多く、食料品製造業、印刷・同関連業の割合が高くなっています。
- 農業では、女池菜が新潟市の食と花の銘産品に指定されています。  
また、中央区は市内最大の消費地であることから、市内産農産物の認知度を高めるとともに地産地消に努めています。
- 北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組みが進められています。

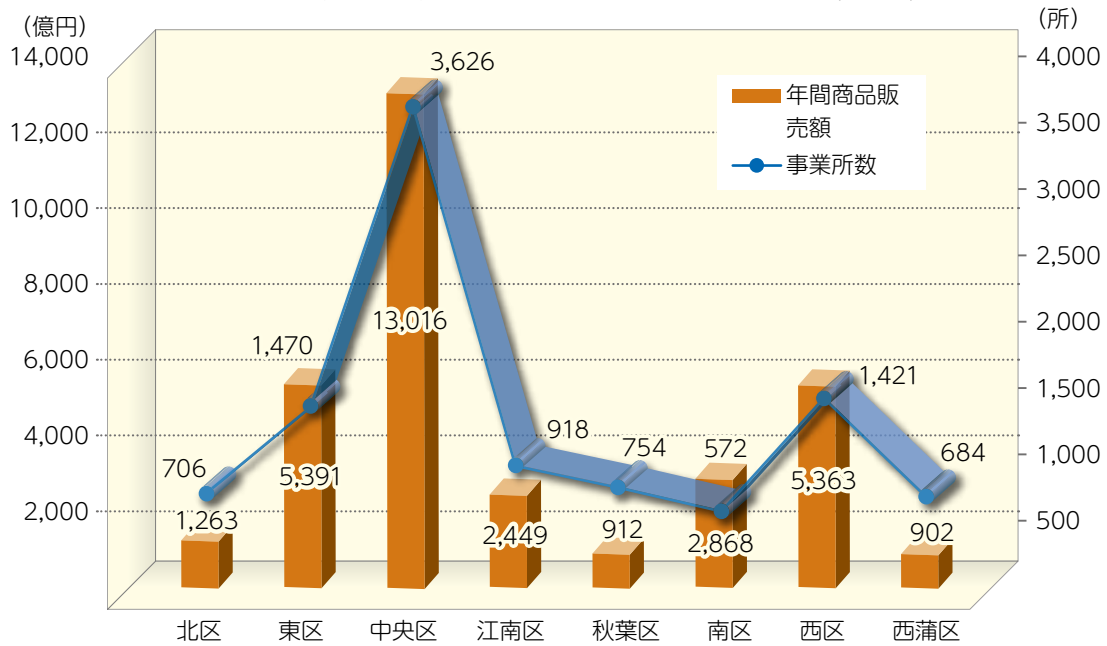


食と花の銘産品 女池菜



新潟酒造り

## 平成24年度 年間商品販売額及び事業所数（区別）



資料：商業統計調査（H24）

## 7 交通

- 高速道では、北陸道、磐越道、日本海東北道の3路線の結節点を擁し、一般道では国道7号、同8号、同116号などのほか、県道や市道が中心市街地に向けて整備されています。
- 鉄道は、3駅が設置されており、新潟駅には、上越新幹線のほか、在来線では信越本線、白新線、越後線が集まっています。
- バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されています。
- 海路では佐渡航路があり、信濃川においても水上シャトルバスが運行されています。



整備された道路網



佐渡汽船



水上シャトルバス